

Weekly コラム

平成 29 年 8 月 29 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

見逃さない能力

大失敗は大発見の始まりでした…。今月 12 日、ES 細胞、iPS 細胞に続く第三の万能細胞として期待されている『Muse 細胞』についての研究発表が、東北大学大学院医学系研究科の出澤真理教授により出されました。今のところ、根本的な治療法が存在しない慢性腎臓病を治すことが出来るようになるかもしれません。

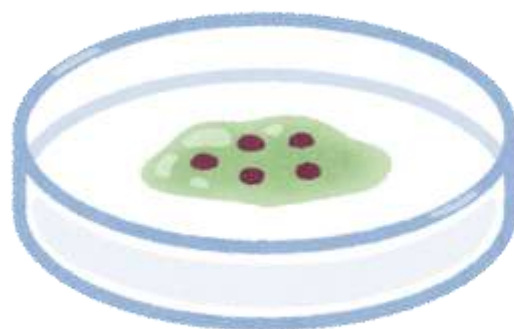
慢性腎臓病は、生活習慣病やメタボリックシンドロームとも関係が深く、誰でもなりうる病気です。「全国腎臓病協議会」のウェブサイトによると、国内の患者数は既に約 1330 万人に達していると考えられ、新たな国民病と言われています。腎臓は血液中の老廃物をろ過しますが、細胞が傷付くと老廃物が十分に出せなくなり、命に関わる場合もあります。また、一度傷つくと回復しない場合が多いため、人工透析や腎臓移植しか治療法はなく、患者の体への負担、そして経済的な負担が高くなっています。

発見された Muse 細胞は、元々、体内の骨髄や皮膚や脂肪などに存在している細胞のためガン化の危険が極めて少なく、多様な細胞に変化できる天然の多能性幹細胞です。普段は、細胞や組織の小さな傷を修復しているとされていますが、この Muse 細胞の特徴は、自発的に傷付いた臓器に集まり、修復するために必要な細胞へと分化し、組織の修復をしてくれます。しかも Muse 細胞は点滴で体内に取り入れることができるため、新鮮な Muse 細胞を点滴で大量に体へ入れるだけで治療が済むので、患者の体への負担も少ないです。実際に点滴による再生医療が実現すれば、全国の

一般病棟で治療を受けられる未来も開けてきます。

さて、このように無限の可能性を持つ Muse 細胞ですが、発見はある失敗からでした。ある日、出澤教授は骨髄の細胞を株分けするため消化酵素をかけて処哩していたところに、共同研究者から飲み会への誘いがありました。慌てて別の培地に保存したつもりが、再び同じところに消化酵素を入れて飲み会に出かけてしまったそうです。翌日培養室に戻ってくると、普段は培地がピンク色なのに黄色になっており、ほとんどの細胞は死んでいました。しかし、いつもの癖で細胞を廃棄する前にもう一度チェックしてみると、わずかに生きている細胞がいたのです。それが Muse 細胞でした。この経験から出澤教授は研究の成果を出すためには、粘り強く最後まであきらめず継続することと、目の前で起こっている現象を見逃さない能力が必要だと話されています。

現在、Muse 細胞は様々な疾患を対象として研究が行われています。まだ発見されたばかりで実用化には至っておりませんが、Muse 細胞の万能細胞が今後の医療に明るい未来をもたらすのは間違いなさそうです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。